

研究課題 (テーマ)	音楽科学研究のためのピアノ演奏コーパスの構築		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	知能ロボット工学科	講師	岡崎聡
分担者	知能ロボット工学科	教授	モクタリパーハム
研究結果の概要			
<p>目的：</p> <p>自然言語処理や音声認識研究の基礎となる研究分野としてコーパス言語学がある。一方で、音楽情報処理研究の基礎には同様の研究分野が存在しないようである。研究代表者はこの点を指摘し、「コーパス音楽学」研究を提唱した(岡崎他, 2021)。本研究の目的はコーパス音楽学研究の先駆的取り組みとして、ピアノ演奏のデータセットを構築することであった。</p> <p>方法：</p> <p>(1)演奏データの収集</p> <p>音楽大学でピアノを専攻する学生以上の熟達者を対象に、コンサートなどの本番演奏ではない、本コーパスのために依頼した専用の演奏を収録する。やや難度の高い同一の曲の演奏データを複数人から収録する。</p> <p>(2)データセット構築</p> <p>収録された演奏情報と楽譜情報の対応づけを行う。</p> <p>※演奏は楽譜に定められた時刻から必ず逸脱する。この芸術的逸脱は、演奏の印象を決める主要因となっている。逸脱後(演奏)から逸脱前(楽譜)への対応づけは逆問題であるため難しく、人がマニュアルで行う必要がある。</p> <p>結果：</p> <p>(1)演奏データの収集</p> <p>京都市立芸術大学にて3曲・5名のピアノ演奏データを新たに収録した。曲目は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Chopin, F.: ノクターン Op. 9, No. 2.</li> <li>・ Chopin, F.: 別れの曲 Op. 10, No. 3.</li> <li>・ Chopin, F.: 華麗なる大円舞曲 Op. 18.</li> </ul> <p>演奏は、ピアノを専攻する学生・大学院生によって行われた。</p> <p>(2)データセット構築</p> <p>収録済みのピアノ演奏(1曲・6名)の演奏データについて、演奏情報と楽譜情報の対応づけを行った。</p>			
今後の展開			
<p>コーパス音楽学の目指すところは、音楽演奏データをコーパス的に収集し解析することで音楽科学の理解を進めることにある。また、コーパス言語学における国立情報学研究所の音声資源コンソーシアムのような、音楽研究のためのデータ資源ハブの構築を構想している。多様な演奏を収集することで、演奏に影響する要因や演奏の一般性に対する解析を可能にし、データセットの公開を通して音楽演奏に対するデータサイエンスが広まっていくことが期待される。</p>			